

TSM

高校生を対象とした SDGs・ESD学習プログラム

《持続不可能な社会が迫りつつある》

基本認識

近年の急速な科学技術の発展と共に、快適な生活を追い求めるあまり「大量生産・大量消費」のライフスタイルの下で、自然環境の破壊や資源の浪費を繰り返してきた。その結果、今日地球上には、地球温暖化、野生生物の絶滅、熱帯雨林の破壊、砂漠化オゾン層の破壊、酸性雨被害、大気・水・土壌の汚染、など地域及び地球規模の様々な環境問題が生じています。今や私たちの生活はこの地球環境の危機的な状況の下、**持続不可能となっています。**

① SDGsとは、

目先の利益や現在の生活の維持だけにとらわれた考え方ではなく、環境との関わりについて理解を深め、豊かな自然の価値についての認識を高めて、環境を大切にしていこうとする心をもつとともに、環境に配慮した生活や責任ある行動を実践していくことが求められています。以上に鑑み、環境問題を引き起こしている社会経済の仕組みを理解することにより、環境に配慮した持続可能な構造へと変革するための持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。

《育てる人物像》

- ① 自らが係わる物の選択、活動、サービスを**持続**、**環境影響**との視点で考え、本質を見抜き、課題として捉えることが出来る。
- ② 課題を**自らの問題**として捉え、解決方法を**開発**・**計画**することが出来る
- ③ 自らの又は他者の開発・計画に参加し、**協力**・**協働**して取り組み、実行することが出来る。

《ESDで育む能力・態度》

1. 批判的に考える力	<ul style="list-style-type: none">・他者の意見、情報をよく聞き、理解することが出来る。・データや考え方を鵜呑みにしないで 持続可能かとの視点で適切に課題が設定できる。・発展的によりよい解決策を考えること ができる
2. 未来像を予測して計画を立てる力	<ul style="list-style-type: none">・見通しや目的意識を持って計画を立てることができる。・あるべき未来を予測し、計画を立てることができる。・無計画に物事を進めない。
3. 多面的、総合的に考える力	<ul style="list-style-type: none">・廃棄物も見方によっては、資源になると捉えることができる。・役に立たないものは、直ちに不要と考えない。・断片的に物事を考えない。
4. コミュニケーションを行う力	<ul style="list-style-type: none">・他者の意見を良く聴く。・自分の考えをまとめて簡潔に伝え、理解させることができる。・他者の意見の欠点ばかり指摘しないで自分の意見を伝えることができる。・他者の意見に自分の意見を加えてよりよい意見に仕上げるることができる。
5. 他者と協力する態度	<ul style="list-style-type: none">・相手の立場を考えて行動する。・自分のことばかり考えない。・仲間を励ましながらチームで活動する。・みんなの良いところを集めて大きな力とする。
6. つながりを尊重する態度	<ul style="list-style-type: none">・自分が様々な物事とつながっている事に関心を持つ。・自分が多くの人々や物事とつながって生きていることを認識する。・出来るだけ多くのことに関心を持つ。・いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する。
7. 進んで参加する態度	<ul style="list-style-type: none">・自分の言ったことに責任を持ち、約束を守る。・無責任な行動をとらない。・進んで他者のために行動する。・自分の得をする行動ばかりとらない。

《効果的教育プログラムの要求事項》

1. 体験型、問題解決型手法が生かされている。
2. 現実的課題に実践的に取り組んでいる。
3. 継続的学びのプロセスがある。
4. 多様な立場・世代の人々との学びの場がある。
5. 学習者の主体性を尊重する（予め1つの回答を出さない）
6. 地域の可能性を最大限生かす。（地域の身近な問題に取り組む）
7. 係わる人が学びあえる。（議論、討論のプロセスがある）

を考慮して学習プロセスを策定する。

学習法としては 《アクチブラーニングが効果的》

持続可能な社会の実現が課題となっていることを踏まえ体験型、問題解決型の学習を通して、環境、食、水、エネルギー、生物多様性などの世界規模の課題を自らのこととして捉え、地域活動など身近なところから取り組み、その解決に向けて考え、他者と協力して活動・行動する実践型プログラムが有効。

《実践型 E S D 教育システム》

プロセス	育む能力
見て・触れて・体験して・認識するプロセス	
*見て、触れて、体験する。 *具体的で、客観的情報を感じ取る。 *考えるための材料を与える。 *考えざるを得ない材料を提供する。	①批判的に考える力 ②本質を見抜く力
考え、計画するプロセス	
*考える環境（プロセス）を提供する。 *未来を創造し、考え、課題・問題をまとめる。 *有効で、効果的で、実行可能な具体的な行動計画を纏め上げる	①未来像を予測して計画を立てる力 ②多面的、総合的に考える力 ③コミュニケーションを行う力
実行するプロセス	
*協働して計画を効果的に実行する。	①進んで参加する態度 ②繋がりを尊重する態度 ③他者と協力する態度
考え、評価し、見直しするプロセス	
*活動を検証し、効果的であったか評価する。 *必要によりシステム、プロセス、を見直しする。	①未来像を予測して計画を立てる。 ②多面的、総合的に考える力。 ③コミュニケーションを行う力。

《農作業体験によるE S D学習》

1. 農作業は、E S D学習プロセスに必要な、①見て・触れて・認識プロセス。②考え・計画するプロセス③実行するプロセス④評価、見直しするプロセスを短時間に、協働で体験することが出来る。従ってE S D学習プログラムとして効果的である。効果的E S D教育プログラムの条件を満たしている)
2. 協働で体験した農作業
 - ①繁茂した竹林の再生
 - ②耕作放棄地へのオリーブの植え付け
3. プロセスと育む能力

プロセス	育む能力
見て・聞いて、触る ①繁茂した竹林 ②耕作放棄地	①批判的に考える力 ②本質を見抜く力
考え、計画する ①未来を創造し、考え、課題・問題を纏め上げる ②有効で、効果的で、実行可能な具体的行動計画を立案する。	①未来像を予測して計画を立てる力。 ②多面的、総合的に考える力 ③コミュニケーション能力
計画を実行する。	①進んで参加する態度 ②つながりを尊重する態度 ③他者と協力する態度
有効性を評価、必要により計画を見直しする	①未来像を予測して計画を立てる力。 ②多面的、総合的に考える力 ③コミュニケーション能力

《SDGsとは》

2015年国連サミットで、全会一致で採択された「持続可能な開発のための持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」です。17の目標と169のターゲットにて構成されています。

具体的には

1. 貧困を無くそう
2. 飢餓をゼロに
3. 全ての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等をみんなに
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10.人や国の不平等を無くしよう
11. 住み続けられるまちづくりを
- 12.つくる責任つかう責任
- 13.気候変動に具体的対策を
- 14.海の豊かさを守ろう
- 15.陸の豊かさも守ろう
- 16.平和と公正を全ての人に
- 17.パートナーシップで目標を達成しよう

《SDGs自分ごと化プログラム》

1. 目的

SDGsは、国連の目標です。従って世界平和、飢餓ゼロ、貧困を無くそう等の個人レベルでは、効果的活動が困難な目標が多く有ります。その結果多くの個々人が他人事と考え関心が低く、具体的活動につながっていません。

以上に鑑み、17の目標を理解し、考え、本質を見抜き、自らが目標達成に貢献できる目標を特定し、**自分ごとと捉え**、みずからが行動変革し、目標達成に貢献することを目標とした実践型学習プログラムです。

2. 学習プロセス

- ① SDGsの17の目標と169のターゲットを理解する。
- ② 目標達成を困難にしている問題・課題とその原因を考え、特定する。
- ③ その原因と自分とのかかわりを考える、かかわりのある原因を特定する
- ④ 原因となる行動を改善・変革するための行動規範を策定する
- ⑤ 行動規範をまとめ、携行できるように名刺サイズにデザインし「MY行動宣言カード」を作成する。
- ⑥ 「MY行動宣言カード」を携行、自らの行動変革を促す。

《ワークショップ》

身近な 持続不可能を考えてみよう

今回、持続の対象を環境に絞っていますが、E S Dでは対象を環境問題に限定していません。地球上には、平和、貧困、環境、資源、人権、財政、など多くの問題・課題があります。

ワークショップにより身近な持続不可能を特定し。その原因、対策を考える事により身近な自分の問題として捉え、行動変革することを目的としています。

このことにより目標達成に貢献しようとするものです。

ワークショップにてSDG sの自分ごと化とE S D双方の効果が期待できます。

1. ワークショッププログラム

1) 準備

- ① 模造紙 グループの数だけ
- ② ポストイット 1人10枚程度
- ③ マジックインキ 数本

2) 手順

- ①グルーピング 7人/班 程度
- ②各個人で身近な持続不可能を考え、ポストイットに書く
- ③ポストイットを模造紙に貼り付ける
- ④持続不可能を分類し、概念化する。
- ⑤議論・討論し、持続不可能の原因を突き止める。
- ⑥議論・討論し、身近で、有効な対策考える。
- ⑦対策を実行（行動変革）し、SDG s達成に貢献する。

中学・高校生向け SDGs / ESD学習プログラム

(キャッチフレーズは、持続可能と確かな認識に基づく覚悟と行動)

1. ESDとは
2. ESDにて育てる人物像
3. ESDで育てる能力、態度
4. SDGsとは
5. SDGs / ESD学習プログラム
 - ①身近な持続不可能を考える (ワークショップ)
 - ②SDGs自分ごと化プログラム (MY行動規範の策定)
 - ③ESD実践プログラム (オリーブ栽培作業)
 - ④ESD実践プログラム (竹林の整備)
 - ⑤ESD実践プログラム (たたら製鉄)
 - ⑥見て持続不可能を考える (耕作放棄された茶畑)
 - ⑦見て持続不可能を考える (水面をゴミで覆い尽くされた小野湖)
 - ⑧見て持続不可能を考える (耕作放棄された田んぼ)
 - ⑨見て持続不可能を考える (海岸に打ち上げられたゴミ)
 - ⑩見て持続不可能を考える (荒廃した里地、里山)
 - ⑪「ゆめ」を描き、語ろう

*時間があればこのような話をする。

《「ゆめ」を描き、語ろう》

(あふれるほどの「ゆめ」、「人生の結果」を描け、人生は大飛躍する)

1. 「ゆめ」を語ることが重要
2. 「ゆめ」があれば、苦しくない、「ゆめ」が無いから苦しい。
3. 「ゆめ」は語るだけで楽しい。実現したらもっと楽しい。
4. 「ゆめ」は、活力の源

《ゆめを、実現するための条件》

1. 自信と確信と覚悟が必要
2. 出来るから入る、すると「ゆめ」が実現する。
3. 必ずやる、できるまでやる。
4. 成功するまでやり続ける動機付けが必要。
5. ゆめを語ることが動機付けになる。
6. ゆめを語る（ほらを吹く）すると実現する。
7. 寝てもさめても強烈に思い続ける。
8. あきらめない、やりとおす、すると成功するしかない。
9. 仕事・人生の結果＝考え方×熱意×能力
10. 現場で汗をかかないと何事も身につかない。
11. 常に内省せよ、人格を磨くことを忘れるな。
12. 人生はシンプルが原理原則

持続可能な社会の担い手を育てるために

私たちが未来の子供や孫のために、「持続可能な社会」の実現に向けて、地球規模の視野から考えていかなければならない。

そのために、生態系など自然界の仕組みと環境問題の本質を理解して、現代社会に山積する課題を解決し、積極的に適切な行動を取れる人材を広く育成し、現代の社会を持続可能なものへ変革していくことを目指す環境教育の重要性は、高まるばかりである。

・地球温暖化 ・農地 ・牧草地帯の砂漠化
・生物の絶滅 ・化石資源の枯渇

今のままの暮らしは**持続不可能**

ESD環境教育

持続可能な社会へ変革

ESDとは

特に新しい教育方法や問題解決法ではありません。今まで、楽しい、美味しい、便利、安い等を基準として問題や課題を設定していたものを、持続性との視点で問題、課題を設定し、従来の方法で解決しようとする物ではありません。

現在地球には、平和、貧困、資源、環境といった現在の生活の持続を困難とする地球規模の多くの課題があります。

ESDとは、命ある生物が遠い未来までその営みを続けていくためにこれらの課題を自らの問題と捉え、自分が出来ることを考え、実践していくことを身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

以下の行動が取れる人材を育成する。

持続との視点で問題を捉える

自分で出来ることを考える

実践する

持続可能な社会を実現

ESDの考え方

ESDの学習や活動で取り上げるテーマ、内容は、必ずしも新しいものでは、有りません。むしろそれらを**持続可能か**との新しい視点で捉え直すことにより、課題を明確にするところから始まります。

持続が可能かとの視点で見直すことがもっとも重要で、活動の出発点となります。

ESD学習方法（問題解決の課程）

つかむ 〈問題の発見〉	<ul style="list-style-type: none">・本物との出会い・豊かな自然体験・多様な人々との交流・持続可能かとの視点で問題発見
調べる 〈関連知識の獲得〉	<ul style="list-style-type: none">・繰り返し体験・調査・研究・多様な情報の入手・持続性の調査研究
まとめる 〈解決法の策定〉	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーション・グループ討議・持続を可能とする取り組み策定
発信・行動する 〈進んで参加する〉	<ul style="list-style-type: none">・持続を可能にする開発（取り組み）を実施・多様な人々との意見交換・環境保全活動への参加
評価・見直し	<ul style="list-style-type: none">・学習方法として有効であったか・解決策は持続性に有効であったか

ACT/WGの学習プログラム

見る・体験する (問題を捉える)	・産廃処分場計画地→耕作放棄地見学
考える・調べる	・持続との視点で問題を明確にする。 ・実施可能な解決策考える。
実践する	・解決策を実施する。
考える・見直す	・学習プログラムの有効性を評価する。 ・解決策の有効性を評価する。 ・学習プログラムを実施する指導者は育ったか。
成果まとめ	・評価結果に基づき学習プログラムを見直し、修正する。 ・学習指導者を特定する。

中学校・高学年向け体験学習

見て・体験して 問題を捉える。	①水面をゴミで埋め尽くされた小野湖を見学 ②耕作放棄された田んぼ・茶畑・山林を見学 ③荒れ行く里山・里海地域を見学する。 ④農作業を体験する。 ⑤海岸などの清掃活動に参加する。 ⑥ボランティア活動に参加する。
--------------------	---

考える	グループ討議にて、 ①問題の原因と実施可能な解決策を討論しまとめる。 ②発表する。 ③討論し、より良いもの（実施可能で、効果的）ものに纏め上げる。
-----	--